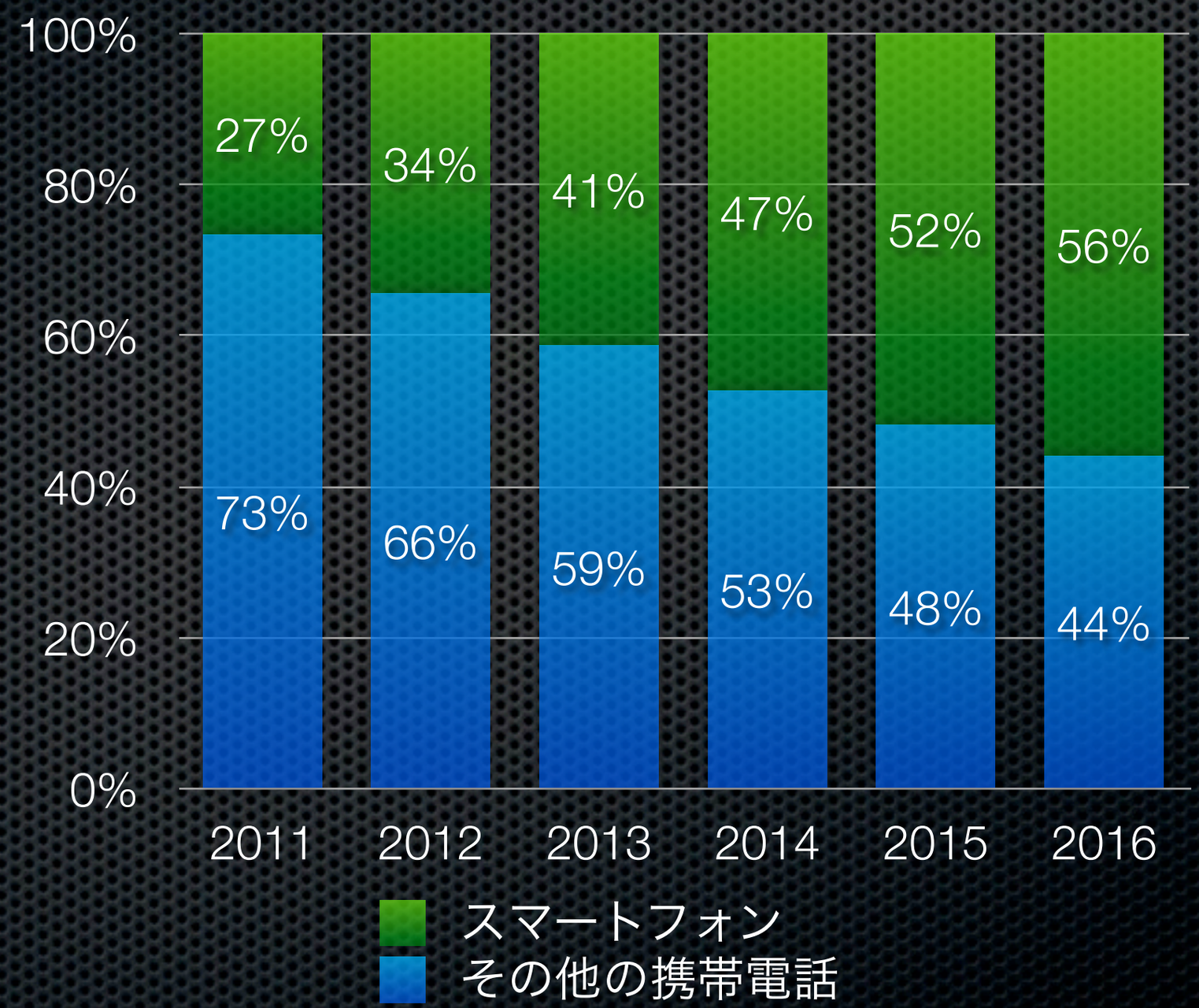
スマートフォン

情報環境論 (3)

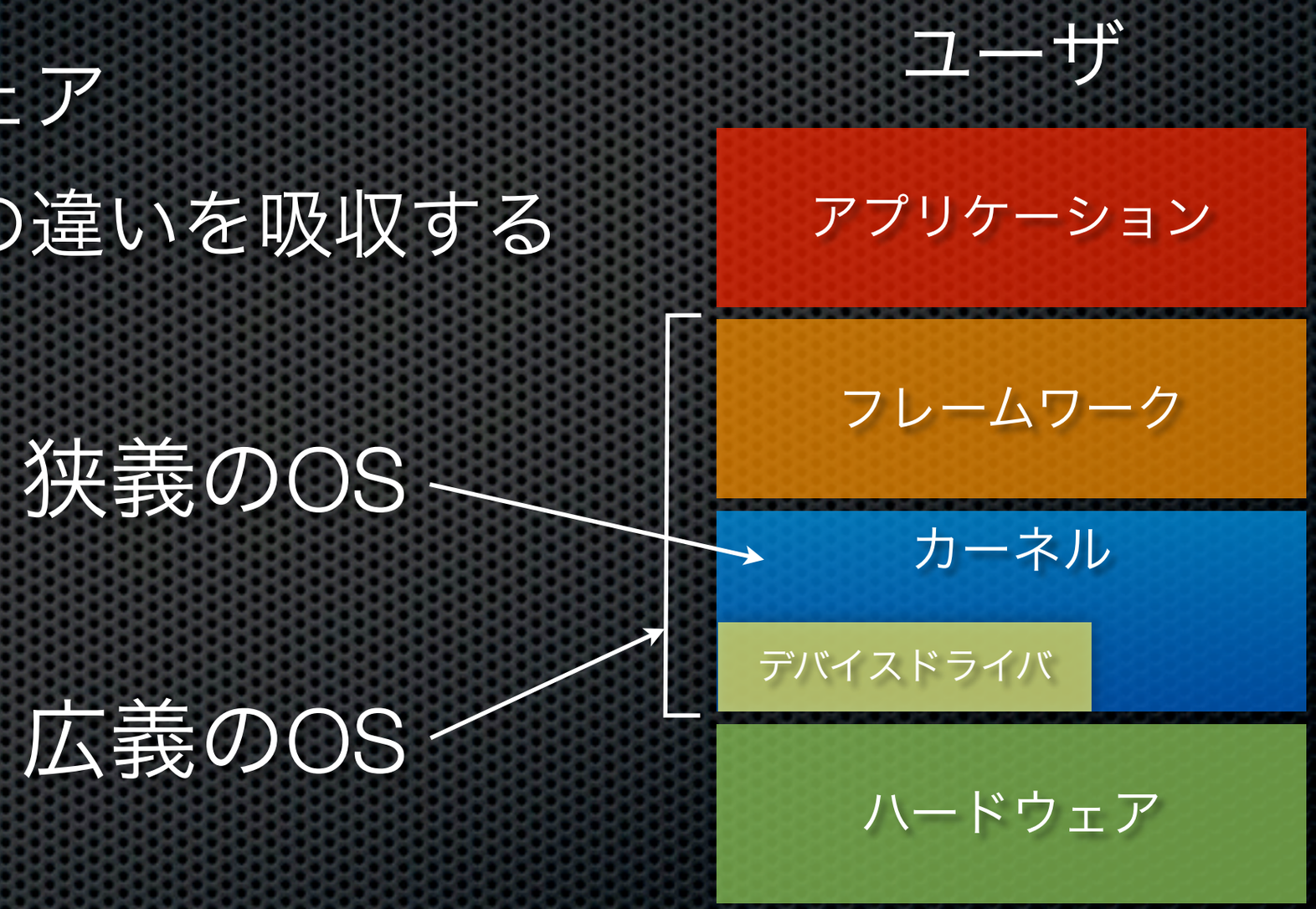
スマートフォンの販売台数

※ 総務省 平成24年版 情報通信白書より



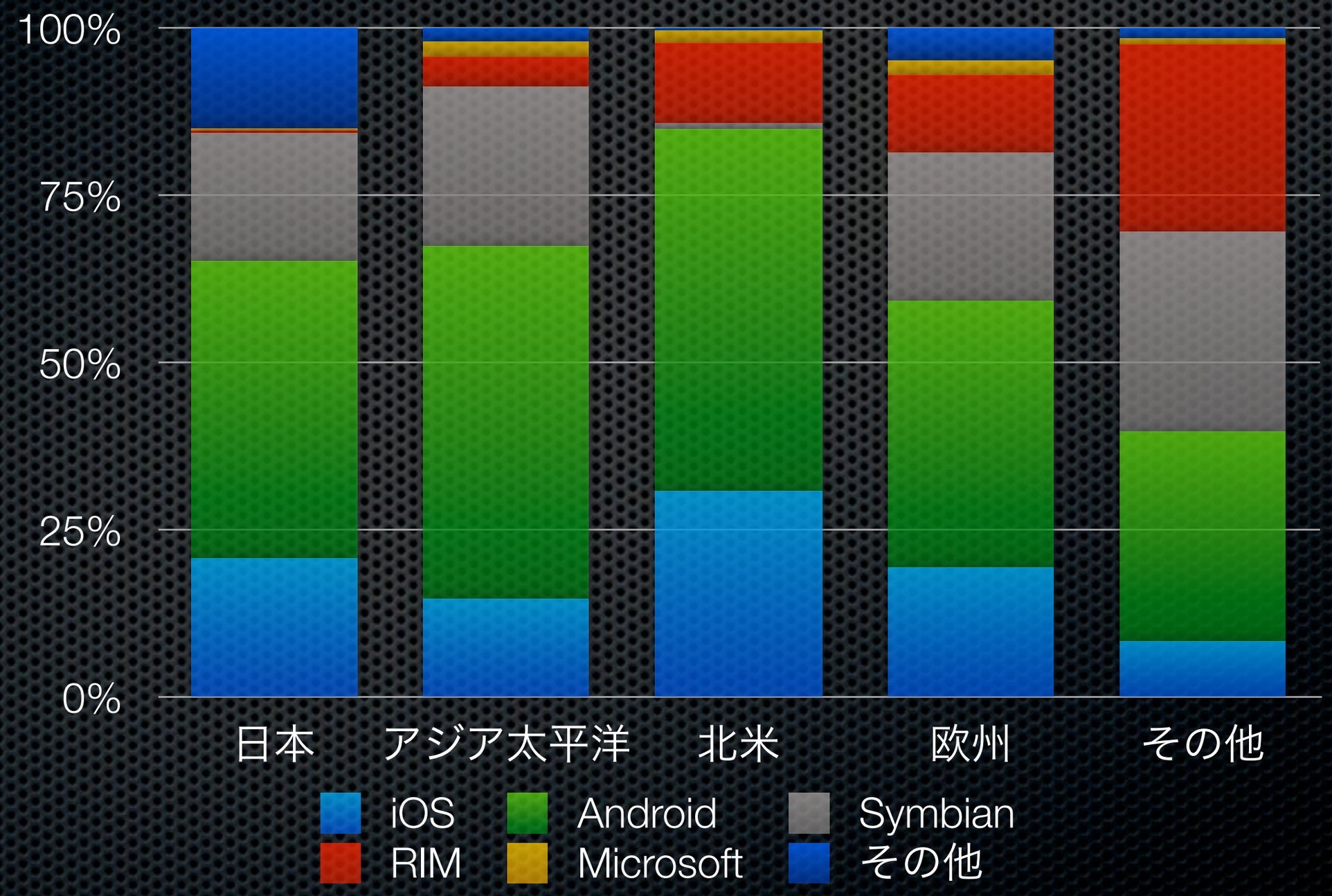
OS

- 基本ソフトウェア
  ハードウェアの違いを吸収する



スマートフォン用OS

※ 総務省 平成24年版 情報通信白書より



Android

- 2007年11月 OHA(Open Handset Alliance)が発表
  OHA＝Googleを中心とする団体
- Linuxをカーネルとするオープンソースソフトウェア
  → 実装は端末メーカが行う

Android用アプリの配布

- アプリ数 60万超（2012年）
- Google Play
  ＝Googleが提供するアプリ等の配布サービス
  - ✓ パソコンからの購入も可能
  - ✓ その他のマーケットも存在

Android用アプリの開発

- 動作環境：Dalvik VM
- 開発環境：Javaのサブセット＋Android拡張
- Google Play
  - ✓ 登録料 $25
  - ✓ 利益 70%（30%はキャリア等）
  - ✓ 審査は簡易

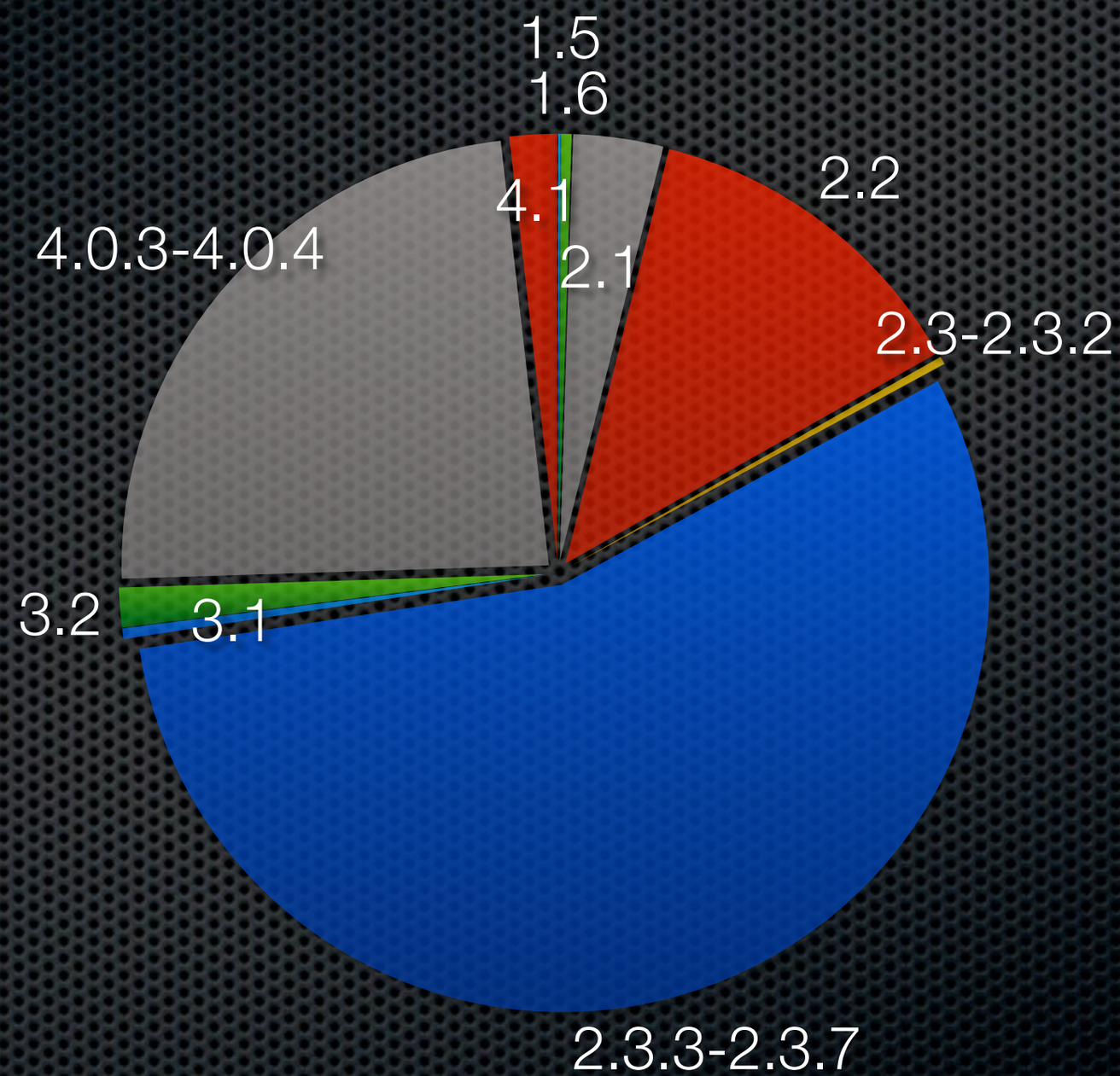
特徴

- 柔軟性・マルチプラットフォーム
  - ✓ オープンソース
  - ✓ VMの利用
- アプリ開発者の参入障壁の低さ
  - ✓ 安い登録料
  - ✓ 様々なアプリマーケット

課題

- パフォーマンス
  - ✓ OSの開発 ≠ 端末の開発
  - ✓ VMの利用
- OS間の互換性問題
- セキュリティ
  - ✓ 多様なアプリマーケット

Androidのバージョン分布



iOS

- 2007年6月 Appleが発表
- Apple社のiPhone, iPod touch, iPad, Apple TVに搭載

iOS用アプリの配布

- アプリ数は約65万本（2012年6月）
- App Store経由で配布
  - ✓ iTunes経由でパソコンからも購入可能

iOS用アプリの開発

- 開発環境：Xcode（Mac上の開発環境）
  開発言語：Objective-C ＋ Cocoa touch
- App Store
  - ✓ 開発者登録料 $99/年
  - ✓ 利益70%（30%はApple）
  - ✓ 審査は厳格

特徴

- パフォーマンス
- セキュリティ

課題

- アプリ開発の参入障壁
- 異なるOS間の互換性
  （Androidに比べれば軽微）

iOSとAndroid

- iOS = 垂直統合モデル
  - ✓ 端末，アプリの売り上げ → Appleの収益
- Android = 水平分業モデル
  - ✓ Googleの収益 ← 検索と広告

今後

- Windows Phone 8 → 10月末リリース
  - ✓ Windows Phone用アプリ 6万程度
- Android 4.2 → 11月上旬リリース